

ウェアラブル導入

サ高住新設 自立維持に貢献

メディカル・ケア・プランニング（東京都江戸川区）は1日、サービス付き高齢者向け住宅ハーモニーライフ東松山駅前（埼玉県東松山市）を開設した。ウェアラブル機器を活用したバイタルチェックなどにより、入居者の自立を長期間維持することを目指す。

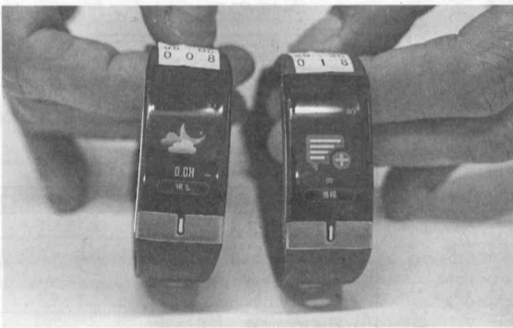
4階建て、総居室数にはミニキッチンを設置した58室。居室面積は25㎡を、簡単な調理が可能な18㎡を、36㎡を、25㎡と36㎡の居室を用意している。生活介護の指定を受け、各種介護サービスを提供している。

バスを提供している。アクセスは東武東上線の東松山駅から徒歩5分。徒歩圏内に大型ショッピングモールもある。

開設準備室の光山亮二マネージャーは、「入居者が安心して、自宅同様に自立した生活を送れる環境にこだわっています」と語る。



▲施設外観



▲ウェアラブル機器を本格導入する

その一環でバイタルDX（東京都新宿区）のウェアラブル機器、VDXヘルスケアを導入している。ウェアラブル機器の本格導入

は、法人内で同施設が初となる。リストバンド型で、体温、酸素飽和度、心拍数、血圧、脈拍といったデータが収集でき、職員のPC、

スマートフォンで確認できる。入居者ごとに設定した値を越えた場合は、職員のPC、スマホに知らせる。施設では、入居者に

対しVDXヘルスケアを提供、見守りに活用する。入居者はバイタルの把握により「見守られている安心感」から、身の回りのことは従来通り自分で行うなど、積極的な生活ができる。データはグラフ化され、視覚的にわかりやすく表示。利用者家族に、本人の状態を説明し、よりよいケアの方針を考えるために利用される。また、新型コロナウイルス感染症で療養が必要な場合は、本機

を見守りに活用する。光山マネージャーは、「買い物にも便利で、車、電車でのアクセスも良く来訪する家族にとっても好立地です。施設内ではしっかりと見守りやケアで安心して生活できる環境を提供することで、買い物や家族との外出など、自宅にいた時と同じような生活を送ってもらい、自立を維持できると考えています」と語った。